

# 南インドにおける防災と気候変動適応策に対する学校教育に関する研究

アナ カロリナ ボニファシオ

キーワード： 防災教育、 災害リスク削減、 気候変動への適応

## 1.0 研究背景

災害リスクの削減および気候変動適応に向けたコミュニティの行動は、「災害回避の文化」促進やコミュニティ防災の創造に決定的な要素を占める。コミュニティにおける学校の役割は大変重要であり、学生に災害の過程で必要な利害関係者であることを自覚させるよう奨励すべきである。本研究では、①災害リスクの削減および気候変動適応に関する防災教育の現状を評価し、②その問題点を挙げより効果的な防災教育に向けた一連の提案を行い、さらにより良いコミュニティ防災を目指し、③防災教育の観点から災害リスクの削減および気候変動問題の統合に向けた主要な利害関係者の特定を目的とした。

## 2.0 調査地および研究方法

本論は南インドの Chennai・Cuddalore・Samiyarpettai・T.S. Pettai に位置する沿岸コミュニティを事例に、学校の生徒と先生を対象に、二回の実地調査を行った。本研究では、それぞれの調査地でアンケート調査およびフォーカス・グループ・ディスカッションを実施し、災害リスクの削減に関する意識評価、およびコミュニティ内でより効果的な災害リスクの削減に向けて、教育への気候変動適応を主流化する際の課題と改善点に関する評価を行った。

## 3.0 結果および考察

南インドの調査地における防災教育の限界は以下の通りである。すなわち、先生を対象としたトレーニングの緊急な必要性、学校カリキュラムの時間的逼迫、学校内教育への傾倒、より注意深くかつ最新の教材の必要性、文脈特定的かつ沿岸域の教育内容の欠如、などを挙げることができる。

したがって、学校レベルでの防災教育における災害リスクの削減および気候変動適応の統合には以下の三点が必要である。①災害、特に気候変動の影響に関連するトピックを扱うためのより効率的なアプローチ、②生徒はサイクロン・洪水・海面上昇の影響について知識や興味は非常に低いので、学校教育での十分な検討が必要、③生徒は沿岸域の潜在的な脅威について教育を受けより意識すべき、である。

さらに、防災教育に関する学校のカリキュラムを改善する必要がある。人々は地域に応じて様々な災害に直面しており（例えば、沿岸域の災害は山地での災害の様相と異なる）、各地域の特徴を配慮した特定の文脈に基づく教材の導入が必要である。加えて、気候変動の影響に関連する教育トピックや学習の適切な実施を支援するために、NGO だけでなく学校や学者も交え、より良い協力が必要である。管轄する行政当局によって発達させたコンテンツ管理システムは、教材の作成および適応させるだろう。先生は学校教育プログラムで災害および気候変動を組み合わせ、知識を啓蒙する主体としてトレーニングを受けるべきである。したがって、災害リスクの削減および気候変動適応に関する能力構築および意識を高めるには、両親、先生、コミュニティのメンバーが関わることは重要となり得るだろう。